

CAPチャレンジ2007

代表者 松野雄太(教4年)

構成員 奥谷里美(教2年)小野真由美(教4年)柿野香織(教1年)
喜岡大哉(教1年)坂本奈美子(教1年)鷺明日美(教4年)福田由佳(経4年)
森沙織(理4年)森広恵実(教4年)矢壁由理(教4年)

4月1日から2月16日現在までの成果を、簡単ではありますが報告いたします。

(1) プロジェクトの目的

このプロジェクトの目的は、三つほどあります。一つは、山口市内でCAP西京という市民活動グループにより実施されているCAPワークショッププログラムへ参加することです。わたしたち学生が参加することで、県内で実施されているCAPの活動をより充実させようと考えています。

もう一つは、CAPプログラムにおけるプログラムの進行役であるファシリテーター、ロールプレイヤーとしてのスキルを身に付けることです。県内で実施されているCAPのプログラムに参加するだけでなく、主体的に実施することができるよう、スキルを身に付けたいと考えています。そして、もう一つ、子どもをめぐる諸問題についての研究を深め、意見交換を行うことです。児童相談所職員、臨床心理士、県内CAP関係者など児童福祉・教育関係者と交流し、それを通してCAPワークショッププログラム、子どもをめぐる諸問題について考えていきます。



～市民講座へCAPして参加～

(2) プロジェクトの内容

CAPの概要

CAPとはChild Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の略称で、子どもがいじめ・虐待・痴漢・誘拐といった様々な暴力から自分を守る力を育む教育プログラムです。従来の「～してはいけませんよ」式の危機防止教育とは異なり、何よりもまず子どもの中に人間としての権利意識を育てるプログラムです。CAPでは、子どもたちに、安心、自信、自由の3つの権利を教えます。この大切な3つの権利が奪われそうになった時、つまり暴力にさらされた時、子どもたちができること—いやという(NO)、逃げる(GO)、相談する(TELL)などを簡単な劇を用いながら教えます(子どもワークショップ)。そして、子どもが自分で自分を守るという主体性を育てます。また、子どもだけでなく大人を対象としたおとなのワークショップというものもあります。そこでは、大人の権利意識を高め、暴力防止の雰囲気を作り出していきます。子どもの安全に対する意識が高まっている今日において、CAPは非常に有効なプログラムです。わたしたちは、山口の地域にCAPを根付かせようと活動しています。

県内CAP活動の見学・参加

県内で実施されるCAPの活動にロールプレイヤーとして参加します。学校で子どものワークを開くためには教職員向けのワークと保護者向けの大人のセミナーが必要になります。CAPをぜひわが校にもでも、という声をよくいただきます。また、地域の公民館において人権学習講座に参加することもあります。地域の方々と直接触れ合うことで子どもを守ろうという熱意や意識の高さに気づくことができました。地域全体で協力していくためには共通理解が必要だということを身をもって体験しました。児童向けのワークもありますが、子どものワークにはスペシャリスト養成講座を受けて資格がないと参加できないので、資格がないものは後ろで見学して大人のセミナーだけロールプレイヤーとして参加します。大人のワークショップの主な内容は下記の通りです。わたしたちが実際にロールプレイするのは5の「子どもワークショップの紹介」です。

おとなワークショップの内容

1. CAPとは何か

2. CAPの歴史

3. CAPのアプローチ

子どもはなぜ暴力を受けやすいか

1. 子どもは社会的な力を持たされていない
2. 子どもは暴力についての正しい知識を与えられていない
3. 子どもは孤立させられている

4. CAPプログラムの三つの柱

1. 子どもの権利—安心・自信・自由
2. エンパワメント—子どもの問題解決力への信頼と働きかけ
3. コミュニティ—家庭・学校・地域をつなぐ

5. 子どもワークショップの紹介

6. 虐待の基礎知識

7. おとなができること

信頼できるおとなとして子どもに出会う

子どもの話をどう聴くか

家庭や学校でできるフォローアップの方法
地域の社会資源や相談機関の情報

(CAPへの招待より)

CAPスペシャリスト養成講座

CAPプログラムの質の維持という点から、CAPプログラムは、CAPスペシャリスト養成講座の基礎編と実践編を受講したものでなければ実施できません。わたしたちは、主体的にCAPプログラムを実施していくため、また、CAPの理念についての考え方を深めることも兼ねて、CAPスペシャリスト養成講座に参加します。

定例会

わたしたちは毎週水曜4コマに定例会を開いています。主な内容としては、学習会等イベントの企画、県内CAPの活動の見学・参加の日程・メンバー調整、資金運用経過等活動報告、メンバー募集ポスター作成、CAP西京の宮原さんの指導の下行うロールプレイの練習、子どもをめぐる諸問題の意見交換などです。ワークショップで権利の説明に使う「安心・自信・自由」のパネルも作り、実際に使用してもらいました。

学習会の実施

子どもをめぐる諸問題について研究を深め、意見交換を行います。児童相談所職員や臨床心理士、県内CAP関係者を講師として招き学習会を開きます。対象はCAP関係者だけでなく、山口大学の学生や地域の方々など、子どもをめぐる諸問題について関心のある方すべてにポスターなどで宣伝し行います。

(3) 活動状況

昨年から活動に参加しているものがほぼ4年生ということで、まず新メンバーの募集を行いました。茶話会を開き、CAPの内容についての簡単な説明、模擬ワークを通してワークショップの流れ、CAPが伝えたいこと等を知ってもらいました。新メンバーが5人集まり、前期はCAPについての深い理解、ワークショップの流れ、ロールプレイの練習を中心に行っていくことにしました。定例会では、ワークショップのシナリオの読み合わせを行い、意見交換を行いました。

CAPスペシャリスト養成講座(基礎編)

7月14日、15日、16日の3日間で行われたCAPスペシャリスト養成講座(基礎編)には計3名が参加しました。基礎編では、防止教育の思想と理論や、子どもを取り巻く暴力(特にいじめやDVなど)の基礎知識、CAPの意義などを講義形式で学びました。講義のあいまに何回も参加者や講師の先生と意見交換をすることで、色んな立場のひとの意見を聞くことができたり、自分の考えを深めることができたりと、本当に意義のある3日間だったと思います。

<スペシャリスト養成講座(基礎編)の感想>

「三日間の養成講座で想像以上のものを得ました。期待以上です！CAPの魅力は、子どもの前でワー

クショッパを行うだけでなく、その後のトークタイムがあることだと思います。子どもの話を聞くということが、ただ聞き出すだけでなく、相手を認め心を開かせるという難しいことを知りました。実践編を受けてスペシャリストを目指したいなと思いました。有意義な三日間でした。」

「大分で行われた、三日間の講座に参加し、自分の世界が広がっていくのを感じました。わたしは自分自身暴力を受けた経験があり、CAPの考え方や講師の方々のお話を聞く中で、これ以上つらい経験をする子どもが増えないように傷ついた子どもを救えるようになりたいと思う気持ちが強くなりました。」

教職員ワークショップ

7月21日に山口県セミナーパークで行われた教職員を対象とした教職員ワークショップに3名参加してきました。教職員ワークショップでは虐待や通告に関して必要な知識、子どもの人権を尊重すること、虐待が疑われる子どもの話の聞き方などを研修しました。

<感想>

スペシャリスト養成講座でも教職員ワークショップでも、プログラム全体が「あなたは大切な人だよ。」というメッセージがこめられていて、講義を受けているわたし達も暖かい気持ちになれました。この研修を通して子どもを大切にすること、子どもの力を信じてその力を引き出すこと、わたし達も自分を大切にすることということを学ぶことができました。とてもあたたかく、充実した時間を過ごすことができ、満足しています。この研修をこれからの活動に活かしていこうと思いました。

市民講座

9月20日に大内公民館において、山口市人権学習講座「いじめを考える—CAPプログラム」にロールプレイヤーとして参加しました。本講座では地域の方々を対象にCAPプログラムについての説明とCAPプログラムの理念をもとに人権、いじめについて地域の方々とともに考える活動をしました。地域の方々も積極的に発言等して下さりとても有意義な時間となりました。

子どもワークショップ(大歳小学校)

10月3日、大歳小学校にて行われた子どもワークショップにロールプレイヤーとして参加しました。1, 2校時は3年生、3, 4校時は4年生を対象に行われました。印象に残ったことは、子どもたちが積極的にロールプレイに参加したり、発言するなどの姿が見られたことです。具体的には知らない人に声をかけられるロールプレイでは、服装や、特徴について抜き打ちで質問する場があるが予想以上に、細かい部分まで覚えていたことなどです。また、トークタイムでは、日常生活のことや家庭の事情、友達の関係を打ち明ける子どももいました。普段言えないことを受け止める場を提供したことで、私たち、CAP団体を必要としてくれている気がしました。

教育学部の授業への参加

10月12日、19日、26日の金曜1コマに教育学部で開かれた総合演習の授業において、CAPを取り上げ、私たちもロールプレイヤーとして参加、また、受講生とまじって学習しました。19日には3名がロールプレイヤーとして実際に、学生の前でワークショップを行いました。26日には、学生と一緒に、いじめなどについて考え意見を交換しあいました。CAPについて何も知らない学生と一緒にCAPの理念について学ぶ機会を持つことができたのは、様々な意見を聞くことができ、とても有意義なものとなりました。

<ロールプレイの感想>

初めて人前でロールプレイをして、戸惑うこともあったが、どうしたらうまく伝わるかということ学ぶことができた。人がやっているところを見るだけでなく、実際に自分がすることでCAPをより理解できたと思う。



～総合演習：人権教育にてロールプレイを実施～

学習会

11月23日に臨床心理士の大津秀敏先生を招いて、「子どもの見え方感じ方～家族療法の視点から～」の学習会を行いました。子ども、特に発達障害児その家族への対処法の1つとして“家族療法”があります。この家族療法の視点を中心に子どもだけでなくその親との関わり方や当事者の気持ちの持ち方を教えていただきました。

ある「問題」が起こったとき、「原因」がありますが、この原因は唯一無二ではなく、複数の事象が影響し、連鎖しあっています。だから、このような「問題」を解決しようとするとき、連鎖の1部を変化させてあげることで、問題を和らげていくことが大切なのだということを学びました。

このことは、私たちが普段生活するなかでも同じようなことがいえます。問題とその原因を局所的ではなく全体的に捉え、少しずつ変化させることの大切なのだと感じました。

とても有意義で充実した時間を過ごすことができました。

CAPスペシャリスト養成講座(実践編)

実習のために昨年参加できなかった3人は1月14日に大阪で行われた実践編の最終日のみ参加しました。内容は基本的に最初の2日間を振り返り、講師が質問に答える時間が中心でした。また、グループになって話し合うことも多く、例えば「学校のイメージは？」等のテーマを与えられ、考えを深めることもありました。これらの活動を通して、活動を維持していくためには、活動団体に所属する方法も考えられるが、団体という枠にとらわれずに、活動をしていく方法も知りました。例えば、私たちの場合であれば、学校現場でCAPの3つの柱を日々の学級経営に取り入れることが考えられます。このように、活動団体に入らなければいけないという概念は解消され、自分のペースでCAPのよさを伝えていきたいと思いました。

～本年度の活動の成果と反省・これからの活動の展望～

まず1年生が加入してくれたので、来年度からも活動は継続していくことができます。1年生のうち2人はスペシャリスト養成講座(基礎編)を修了したので、来年度の実践編を受講すれば、あとの2年間子どものワークショップにも参加できるようになるのでとても期待されます。また、今年度も積極的にCAP西京さんと連絡を取っていくことでさらにつながりは強くなったのではないかと思います。これからも、地域とのつながりを強化していきたいと思います。反省点として、本年度は昨年度に比べてワークショップに参加することがあまりできなかったことが挙げられます。

スペシャリストも増えてきたので、これからは少しずつですが、将来的にこのプロジェクトだけでワークショップが開けるように、CAP西京さんのお力を借りながら取り組んでいきたいです。また、もっと開かれたプロジェクトにしていくために、CAPの魅力を一人数でも多くの学生に知ってもらうために、メンバー一同全力でPR活動に励みたいと思います。

「山口大学おもしろプロジェクト'07」収支報告書

プロジェクト名 : CAPチャレンジ2007

代表者所属学部 : 教育学部教科教育コース

代表者氏名 : 松野 雄太

(単位:円)

配 分 額		200,000			
区 分	実施経費内訳	数 量	単 価	金 額	備 考
物品費等	CAPスペシャリスト養成講座受講費	3	26,250	78,750	
	CAPセンターJAPAN活動会会費	3	3,000	9,000	
旅費	7/14~7/16 大分県大分市(大分中央公民館)	3	6,000	18,000	
	1/13~1/14 大阪府高石市(たかいし市民文化会館)	3	25,340	76,020	
謝金	学習会「子どもの見え方・感じ方」の講師	1	10,000	10,000	
	学習会におけるロールプレイの演技指導等の講師	1	8,230	8,230	
合 計				200,000	